

STYLING

VOL.89 Yamaha Guitars SINCE 1966 ~

●【ヤマハ・ギター】

photo/Tomoaki Tsuruda(wpp)

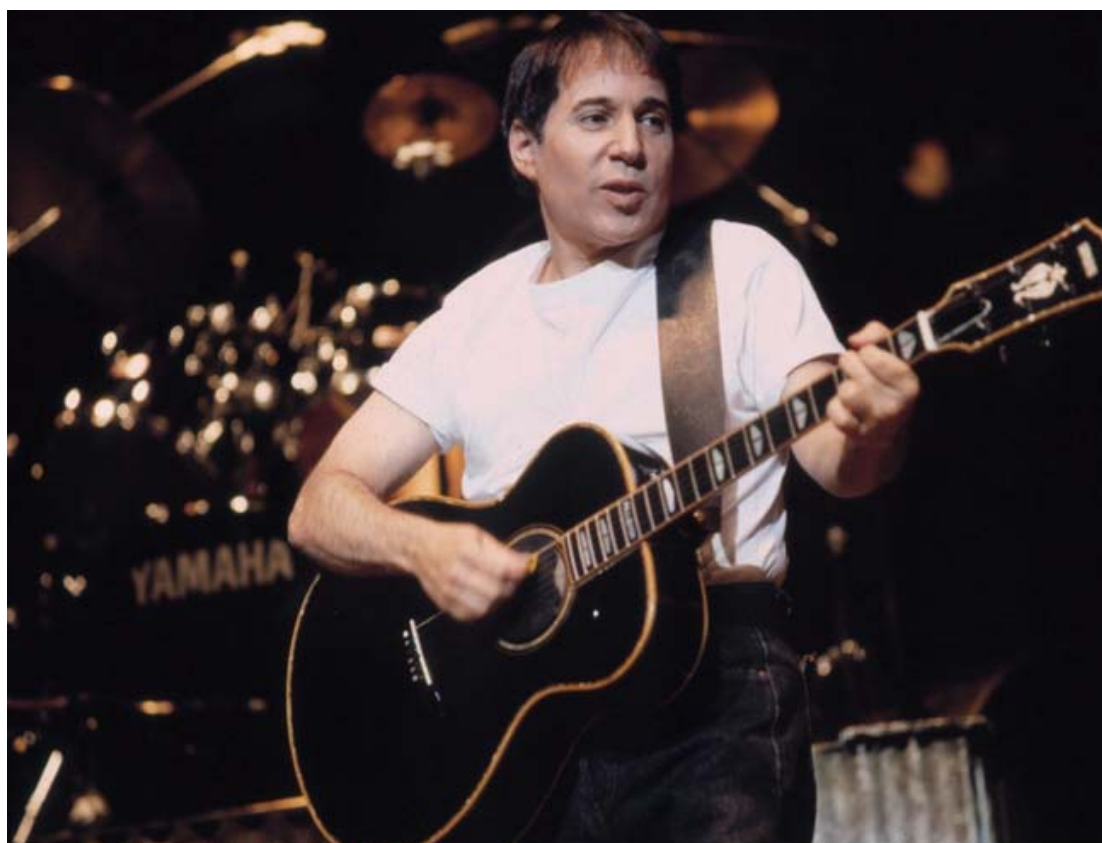
YAMAHA

Text/Teruhiko Doi(wpp)

MONO



正式なレッスンを受けなくても独学で演奏できるようになる。ギターはその手軽さで人気となった楽器の代表。当時は誰もがナルシソ・イエベスの「愛のロマンス」をつま弾いたものだ。この曲は仏映画「禁じられた遊び」の劇中で使われたテーマ曲だった。



ヤマハ製のギターを持つポール・サイモン。 写真:REX FEATURES/アフロ

1960年代にブームとなったカレッジ・フォーク。当時の高校生や大学生にとって、アコースティックギターを弾きながら歌う、という音楽のスタイルは魅力的だった。それまでのアコースティックギターといえばクラシック音楽、あるいは歌謡曲の黎明期に活躍した歌手のイメージ。ベンチャーズやビートルズのエレキギターは、誰もが欲しがったが、いかんせん当時は高価で簡単に手に入れられるものではなかった。しかし、アメリカのフォーク・グループであるPPM（ピーター・ポール&マリー）に影響を受けたグループやシンガーが国内でヒットを飛ばしたことでアコースティック、とくにフォークギターが人気に。急激な需要の高まりを受けて、1960年代半ば頃から国内の大手楽器メーカーが、量産ギターの生産を開始。とくにヤマハのギターはサウンドや作りへの信頼性が高く、プロのミュージシャンたちの間でも愛用者が多かった。『ヤマハギター』は、日本の職人的感性を持つ同社だからこそ生み出した名品。その歴史は50年前に始まった。

STYLING

MONO



この3月からモデルチェンジとなるFGシリーズは、1966年に発売されたヤマハ初の国産フォークギターである名器「FG180」の血統を継ぐシリーズ。古くからの愛用者にとっても気になるモデルチェンジであろう。



ギター製造の鍵は木工技術。しかし木という材料は品質にバラつきがあり、繊細な音を奏でるギターのような楽器を量産するのは熟練の技術と経験を要する。ヤマハには木工楽器の頂点ともいえるピアノ製造のノウハウがあった。同社は50年前から、常にクオリティの



高いギターを世に送り出してきたが、定番となった人気モデルも少なくなない。アコースティックギターFGシリーズ、そしてFSシリーズも人気のモデル。両シリーズはすべて、今年3月からモデルチェンジとなる。中低音域における音量を強化し、さらに厚みのあるパワフルなサウンドを実現した。

FS830/
スプルース天板、
サイドと裏板は
マホガニー



FG850/
全面マホガニー

STYLING

MONO



ヤマハがピアノ製造を始めた頃からピアノの命といわれる響板だけは日本で開発していたものを使用していた。これは絶対音感を持っていたといわれる河合喜三郎の親戚である河合小市がその製造を担当していたから。小市は後の河合楽器の創始者である。

左下:ギター製造・販売と並行して、ヤマハは「ポップン」と呼ばれたポピュラーミュージック・コンテストを開催。多くの若手アーティストの登壇門となった。音楽文化を支えた同社の功績は大きい。



「会社」を設立。現在のヤマハの基礎はこのとき出来上がったのである。同社の事業は第一次世界大戦の戦勝景気に乗って拡大したが、大正5年(1916年)に寅楠と喜三郎が相次いで他界。その後、相次ぐ工場火災と関東大震災、世界的な恐慌のあおりを受けて倒産寸前に。しかし、昭和2年(1927年)に社長就任



友人から聞いた話なので、そのアーティストが誰だったのかは思い出せない。ただ、1970年代に来日したアーティストのライヴで、サイドプレイヤーのギターリストが最後に「Yamaha's Best」と叫んだのを耳にして、その友人はひどく驚いたと言っていた。70年代、メイドインジャパンはいまほど世界的な評価を得ておらず、日本人の多くの価値観は舶来品信仰。とくに、歴史の浅い国産洋楽器においては、舶来こそ最上は当たり前。の価値観だった。だから、その話を聞いた時には、日本人としてこそはよいような嬉しさがあった。ただ、ヤマハならそれもありか、という思いがあったのも事実だ。



山葉寅楠が初めて修理したといわれている、浜松の小学校にあったオルガン。

ルガンの修理を頼まれたことがきっかけでその構造を知り、これならば国産化できると考えた。明治20年(1887年)の出来事である。文明開化から20年。日本における産業革命がようやく始まった頃。高価な外国製品を国産化できればそれは国産になる、という発想は、至極当然な考え方であった。寅楠は篤志家のカザリ職人であった河合喜三郎と共にオルガンの試作を開始。二か月後に完成した試作品を、現在の東京芸術大学音楽部の前身である東京音楽取調所に持ち込んだ。しかし調律が不正確で使用には耐えないことが判ると、そこから寅楠は約一か月間、集中的に音楽理論を学んだ。そして浜松に帰郷してふたたびオルガンの試作を行ない、今度は「舶来品に代わり得るオルガンだ」とい



山葉寅楠、浜松で医療機械の技師をしていた彼が、オルガンの修理をしたのは35歳の時。

う評価を得る。その噂はたちまち音楽関係者などに広まり、注文が相次いだ。翌明治21年に寅楠は「山葉風琴製作所」を設立。ほどなく従業員が100名を超える大所帯になっていった。ちなみに風琴(ふうきん)とはオルガンのことである。



ピアノのマークに3つの音叉とYAMAHAの文字。1960年代のカタログにはこのマークが入っているが、1970年代に入ると現在の音叉にYAMAHAのマーク。



1966年10月に発行されたヤマハ・フォークギターのカタログ内写真。バーボンに乾燥トウモロコシ、乗馬用の頭絡など、カントリー・フレイバー溢れるスタイリングの中にギターがある。

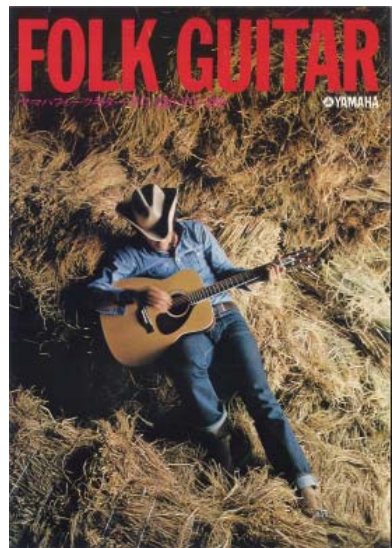


1960年代~1970年代に撮影されたギターの生産風景。爆発的な人気となったフォークギターの製造は多くのメーカーが追いついたが、ヤマハ・ブランドへの信頼性が揺らぐことはなかった。



した川上嘉市が徹底的な合理化と組織改革を行って経営を建て直し、職人の勤に頼っていた楽器製造を、基礎研究を重視した科学的な製造へと変換させた。その後日本は苦難の時代を迎えるが、戦後ふたたび楽器製造を開始。平和産業である楽器製造を軸に多角的な経営を行ない、ヤマハは飛躍的な成長を遂げていく。早くから世界的な名声を得たピアノと同様に、ヤマハのギターもその実力が認められるのに長い時間を要することはない。それは同社のモノ作りが、科学的な根拠と職人技をバランスよくミックスした日本的な感性によって行なわれているから。いま世界に認められるメイドインジャパン製品の価値は、まさにこの日本的な感性。それは1966年のリリースとなったF

Gシリーズも同様で、冒頭の1970年代に来日したアーティストたちはプロの目線で評価していたのである。あのポール・サイモンもジョン・レノンも、ヤマハを自分のギター・コレクションに加えている。世界が認めて50年、次世代のヤマハギターは更なる美しい音色を響かせてくれることだろう。



名器FG180

1966年に発売されたヤマハ初の国産フォークギター。その完成度の高さがたちまち大人気となった歴史的名器。フォーク型のFG150と同時に発売された。正式には「FG180/ジャンボー型」。ちなみに当時の販売価格は1万8000円(大卒初任給2万4500円の時代)だった。



YAMAHA

1971年のカタログ。この時代にはFG220、FG280といったモデルもラインナップに加わっている。この頃から現在のYAMAHAのロゴマークが使用されている。

50周年記念モデル、即買いしたい



FG180-50TH / 価格12万4200円。2016年3月発売。400本限定。



ファンの間では通称「赤ラベル」と呼ばれた、赤い内ラベルが人気だった。当時の興奮そのままに記念モデルにも赤ラベルが採用される。

日本のギターの歴史は、すべて、50年前のヤマハギターから始まった。

STYLING



1966年4月に発売が開始された初のエレクトリックギターが掲載されたカタログ。オリジナルデザインのトレモロユニットなど、当時から独自性の高いデザインだった。

MONO



ヤマハギターに関するお問い合わせは
●ヤマハミュージックジャパン
☎0570-056-808
<http://jp.yamaha.com/>



ヤマハの本社社屋。創業以来、静岡県浜松市が同社の本拠地である。

LL36 ARE

トラディショナルなボディデザインに精巧な貝のインレイ。ギター職人の技術と経験が生み出したラグジュアリーな逸品。極薄のラッカー塗装など、ギターマニアを唸らせる作りに脱帽するだろう。価格38万8800円



FG850

天板も裏面・側板もすべてにマホガニーを採用した味わい深い一本。バインディングにもマホガニーを使用するほどの凝りようで、木の温もりを感じるギターといえる。価格5万4000円



FS830

裏面と側板にローズウッドを採用したモデル。芯のある明快なサウンドでありながら音の深みもある。くびれの浅い薄くコンパクトなボディは圧倒的な弾きやすさ。価格4万5360円



SLG200S

時代の要求に合わせてヤマハが開発したサイレントギター。静粛性と共に、本当に高音質なアコースティックサウンドを実現。細めのネック形状で弦長634mmスケールを採用。価格8万1000円



AC3R

フォークギターFSシリーズのボディにカットウェイを施し、抜群の演奏性を実現したモデル。SRTピックアップシステム搭載。スリムなボディシェイプが美しいギターだ。価格11万3400円



APX1000

スタジオオウリティのリアルなアコースティックサウンドと抜群の演奏性で高い評価を得ているモデル。SRTピックアップシステム搭載。ボディカラーは4色展開(写真のモデルはモカブラック)。価格10万2600円

